

はじめに

It's up to you.

普段生きていて息苦しさを感じている、夢はあるけれど、具体的に何をしたらいいかわからない。挑戦してみたいけど、生活がある。いつも他人の目が気になって自分を殺して生きている。読者の方々の中にはそんな悩みを持っている人もいると思う。常識に振り回されている人たちだと、僕は思う。僕はそういう人たちに自信や希望を贈りたい。

なぜなら、僕自身が常識に振り回されて、自分を見失ったからだ。この話をするには僕の過去を語らずに伝えることは難しいので、少しだけお付き合い合いたい。

小学校のとき、自分は両親の期待に応えようと、塾のクラスを中学受験クラスに替えてもらい、倍率6倍の中高一貫の中学校を受験する。無事、合格することはできた。期待に応え、常識的になり得たが、僕は中学2年生のときに、学校に行けなくなり、自宅で引きこもっていた。俗にいう不登校だ。周りとは違う状態の自分が許せなくて、朝起きてから夜寝るまですつと死ぬことばかり考えていた。精

神科にかかり、出された診断は小児うつ病だった。

実際に死のうとしたこともある。包丁を自分の胸に突き立てたことも、風呂場のタオルで首をつり死のうとしたこともあった。前を向いて生きることなんてできない。そんな状況が半年間続いた。

当時の僕は両親に死ぬまで引きこもっているのだと思われていたし（正確にいうと、そう思われている）と思っていただけだが、同級生には変な奴を見る目で見られていた。当時の自分に向けられる常識的な目を受け入れて生きていたら、ニートか、よくてフリーターだった。

でも、常識を受け入れることをやめた。周りの思う自分像に心底嫌気がさしたからだ。その瞬間から世界が開けた気がした。未来を自由に思い描くこともできたし、自分を信じることもできた。死にたがりて、他人からダメな奴と思われていた15歳の僕を、10年以内に起業して、本を出版する男だと予想できたのは僕以外にはいなかったと自信を持って言える。

僕がすごいということを伝えたいわけではなく、常識的判断からくる未来予想なんて絶対に間違っているって伝えただけだ。だから、それに甘んじている必要なんてないし、覆してやればいい。自分が素晴らしい人間だとことは自分でしか証明できないのだ。

この本を読んだ人が少しでも常識に逆らい、新しい自分を見つけることができれば、それよりうれしいことはない。常識に従い、思考停止する人生はつまらない。常識に逆らった結果、いざこざは生むが、自分を輝かせて生きる。そんな人生は素晴らしい。そんな生き様もかっこいい。僕はそう信じている。

両親、将来の奥さん、個別指導塾MOCに通塾してくれている生徒、そして、これまで僕と出会ってくれた人たち全員に愛を込めて

平成29年2月20日

坂野 力也